

2025 年度第 3 四半期決算説明会 質疑応答

(説明会概要)

- 日時： 2026 年 2 月 5 日(木)16.00-16.45
- 形式： OKI 本社よりオンライン配信
- 説明・応答者： 代表取締役副社長執行役員 寺本禎治

(質問者 A)

- Q1：パブリックソリューションの通期営業利益の上方修正要因を、サブセグメント別に具体的にご説明いただきたい。
- A1：対前年で業績が伸長しているのは消防・防災・ネットワーク、消防はシステム更改案件が今年度ピークを迎えています。対計画では道路・ネットワーク・防衛で、利益率の高い案件が取れているのが上方修正の背景です。
- Q2：特機システム事業の受注の動向について説明願いたい。
- A2：防衛力抜本的強化の国策により、FY23 未受注残は従来比で大きく伸長、FY24 末も増加しています。今年度 FY25 末は昨年度の情報システム換装特需分の剥落がありますが、大きくは落ち込まず前年度並みの見通しです。FY27 に稼働予定の沼津工場新棟の生産能力も踏まえて、中長期的な事業の計画を検討しています。
- Q3：FY26 は消防のピークアウトによって、パブリックソリューションは減速とならないか。
- A3：社会インフラソリューション事業では、確かに消防が落ち込みますがネットワークなどの伸びによりある程度のカバーを期待、また特機システム事業は今年度同水準からやや強めを想定しながら、現在事業計画を編成中です。

(質問者 B)

- Q4：エンタープライズソリューションの通期売上高予想が今回 35 億円下方修正となった背景をご説明いただきたい。
- A4：通期営業利益予想は想定どおりですが、海外で見送りとした入札案件があったなど、期初の売上高予想がやや強めであったのが背景です。
- Q5：足元の外国為替相場が円安傾向となっているので、業績影響を教えてください。
- A5：営業損益について USD 建て仕入取引に伴うマイナス面がありますが、1 円円安による影響は通期で数千万円程度です。営業外損益としては、ネットで外貨建て債権の影響がありますが、こちらもインパクト規模としては僅少です。

(質問者 C)

- Q6：EMS における業績予想の下方修正、売上△25 億円・営業利益△20 億円について、詳細をご説明いただきたい。
- A6：D/EMS 事業での、顧客における在庫調整と開発延伸が主要因で、対象市場としては医療・情報通信・半導体などですが、来期への影響などは精査中です。一方、部品事業では AI 半導体や航空宇宙向けの PCB、FA・ロボット向けのケーブルは好調で、両事業とも顧客・市場の状況を引き続き注視しながら来期の計画を編成しています。
- Q7：防衛の関連だが、豪州次期フリゲート艦の案件の進捗はどうか。また、事業影響はどれくらいの規模となるか。
- A7：まだ正式な受注には至っていません。大規模な案件であり、受注となれば数年間にわたってインパクトが表れるものと想定していますが、金額規模については回答を差し控えます。
- Q8：富士通が ATM などのハードウェア事業から撤退する影響として、具体的な動向は出ているか。
- A8：弊社ではエンタープライズにおいて影響が出ますが、来年度の事業計画や次期経営計画でインパクトを検討しているところです。先方の撤退時期を見据えた顧客の動きも徐々に始まり、保守については 2026 年 1 月から当社が受託

を開始しており、今後より具体的な動きが見えてくる見込みです。

以上

(注)本資料における予想、見通し等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、記載内容につきましては実際のやり取りに即しておりますが、理解しやすいように部分的に編集を加えております。